長洲町立長洲小学校　校長便り　№59

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年12月19日(月)

【雑感】感動は大変の後にやってくる!

この時期、懐かしく思い出すことがあります。それは書道にのめり込んだ時代の事です。大きな展覧会の結果発表の時期だったからです。

私は字を書いてと頼まれることが多く、二つ返事でサッと書くので、皆さん驚かれますね。「精神統一をして書く。」とか、「書くのには時間がかかる。」とか聞きますが、私はまだ発展途上ですから、枚数をこなすこと、即ち徹底的に書きまくることでしか進歩がありません。そう言えば、書道はスポーツに似ています。限界まで自分を追い込み、もう駄目だと思ったその先に、何となく納得のいくものが書けるからです。不思議でしょう。現在、私が、賞状やその他の文章を〝サッ〟と書ける理由は、多分書いて書いて書きまくってきたので、基本が体に叩き込まれているからなのだろうと思います。自分の作品を仕上げる時私は何をするかと言いますと…それは仲間と楽しい時間を過ごし、少しお酒を飲むことです。すると、あら不思議、リラックスした良い感じの作品ができるのです。

展覧会等での作品を仕上げる時の辛さといったら、経験した者でないと分かりません。一つの展覧会に作品を提出するのに、私は最高で800枚書いたことがあります。(少し自慢していいですか?　この時、熊日書道展で特選を受賞しました。)紙のサイズは縦が2メートル30センチ弱、幅が66センチです。この紙に約56文字の漢文を書く訳です。平日は1日に平均で10枚書ければ良い方です。左手を畳に付けた状態で書くので、毎日書いていると左手首が痛くなってきます。左手首をかばうと、今度は腰が痛くなってきます。この状況になると後は精神戦で、「これで良い!」と妥協してしまうと、良い作品は生まれません。最後は何を書いているのか分からなくなってきます。そして私の場合最後の最後まで書くと、どんな文章だったか、というよりどんな形だったか、完全に覚えてしまいます。そうなると後は時の運しかありません。気持ち、墨と紙の相性、体力等々、全てが最高の一点でリンクした時、良い作品が仕上がります。そして、最後にお酒。こんなこと書いていると、書道の大先生方に叱られそうですね。

何でも作品作りはとにかく大変です。何しろ、自分の分身を作るのと同じですから、妥協などできる訳がありません。そしてこれだけの「大変さ」があって、結果が良かった時、作品を観て人が喜んでくれた時、初めて感動がやってくるのです。これは私が書道を通して学んだことです。

「感動は大変の後にやってくる!」何にでも当てはまると思いませんか?　大変だなあと思うこと、最近ありましたか?　感動や達成感を味わいたいと思うなら、少しだけきつい思いや大変さを体験しないといけませんね。しかも、その様なことを積み重ねないと、人間的な成長が望めないので、絶対に大変な目を体験すべきです。小学生の時からこのような経験をさせるためにはという視点で子ども達に接しなければなりません。学習もそうです。というより、学校という場所は、子供達に少し負担をかけ、乗り越えさせて行くことで成長を支援するという施設だと思います。大変さが人を磨き育てると思うのですが…。

シリーズ「自分を語る」#59

さて、2週間目に入り、少しだけ味のあるものを食べるようにしました。それは、白身の魚です。当時の私にとっては凄いご馳走でしたね。とにかく、病気を治すために必死でしたから、ご馳走とか美味しい美味しくない等はあまり意識しませんでした。

少しずつ固形物を摂りはじめた頃、確か12月の終わり頃に事件は起こりました。当然のことながら、アルコールの摂取はドクターストップがかかっていましたので、私の体からはアルコールが完全に抜けて、健康そのものだと思っていました。当時の私は、実は煙草も吸っていましたが、こちらもドクターストップで吸っていませんでした。最初の診察で「澤田さん、死にたくないなら煙草はやめたほうがいいよ。アルコールは付き合いもあるだろうから、時期が来たらOK出すから。」と言われていて、それを機会に煙草は現在も吸っていません。その様な状態でしたから、健康になってきたという錯覚に陥っていたのかもしれません。

夜のゆったりした時間を過ごしていた時のこと、「年が明けたら、アルコールOK出るかなあ。」と淡い期待を抱きボ〜ッとしていると、また、あの吐き気が襲ってきたのです。本当に急な出来事でした。併せて、「みぞおち」をピンポイントで押し込まれるような痛みがありました。前回よりもひどいという印象でした。これはただ事ではないと思い、その場で病院に電話をかけました。当然時間外なので受け入れられないだろうと思っていましたが、朝早くならばOKということでした。電話で指示を受けたのは、「処方していた薬でパリエットという薬があるのであれば飲んでください。」とのこと。途中で別の薬に代わっていたので、少し残っていたのが幸いしました。この薬を飲んだら、30分もしないうちに我慢できない痛みは治まりました。時計を見ると午前3時頃で、まだOKされた時間まで4時間弱あります。このまま痛みが治まってくれるといいなと思いつつ時間をやり過ごしていき、5時半を過ぎたところで病院へ行きました。痛みは何となく治まったものの、断続的に締め付け気をこらえ切れません。病院では「袋」を持ち歩いての診察でした。そして、すぐに「胃カメラ」をすることになりました。前回同様の注射を行い、数時間後、先生の説明を聞くことになりました。

診察室にて。

「澤田さん、前回と同じような潰瘍ができています。そこで、もしや、と思い検査をしたところ、ピロリ菌の陽性反応が出ました。これから除菌治療をします。除菌が成功すれば再発はかなり抑制できます。ただ、この除菌治療は失敗することもあります。私の言う通りに薬を服用して、食事等もきちんとコントロールしてください。」

「なぜ再発したのですか?」

「澤田さん自身の病気に対する抵抗力が落ちていたことが原因と考えられます。」

このとき処方された薬も胃酸を完全に止める薬と除菌薬だったと思います。これを数週間飲み続け、除菌ができたかどうかもう一度検査を行うそうです。私はもう、とにかく治したいという気持ちで、真面目に薬を飲みました。もう、食べるのが怖くて怖くて、この時もかなり痩せてしまいました。

さて、除菌治療が成功したかどうかの再検査をする日がきました。　(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)